



株式会社 新環境設計

人をつなぐ設計

私たち新環境設計は医療福祉を専門分野とする建築設計のパイオニアで、全国の高齢者施設をはじめ、障害者施設、保育園、児童養護施設等の福祉施設全般と、病院等の医療施設を手掛けています。

医療福祉施設は国の政策を基に作られ、時代によってその姿を変えています。

これまでの数十年を支えてきた施設と、これからの未来を担う施設が同じでよいわけがありません。

私たちはこのことを踏まえながら新たな施設を創造し、すべての方にとって心地よい人と人をつなぐ環境づくりを手がけています。



荻原 正之
代表取締役

リアル設計者

「本当の設計者」「現実的な設計者」という意味合いです。

建物が完成をむかえる時、設計者はたくさんのエネルギーを注いできた分、大きな達成感を得ます。

完成したばかりの綺麗な建物は、多くの人にお披露目され、そして祝福されます。

これで、設計の仕事は完了ですが ... 本当はここからがはじまりです。

完成は、ここで行われる事業のはじまりであり、建物はこれから長い年月を経て、社会の変動や、自然の風雨や災害にさらされ、その真価を問われます。

設計者には長期的な視点をもって考えること、そして、建物の生涯に向き合う覚悟が必要です。

建物という現実的な空間は、完成した瞬間から劣化がはじまります。不可欠なのは、耐久性や耐候性、機能の継続性や可変性、そして、メンテナンス性や清掃性です。

建物の寿命に対して、瞬間的な美しさや、今風のデザインは、あまり意味がありません。

100 年を超えて存在する建物は、人が必要とし、人に親しまれ、人が集まる空間です。

建物は長い年月、そこにあり続けるからこそ、街のシンボルになりえるのです。

設計者は、デザイナーと呼ばれ、エンジニアと呼ばれ、たまにアーティストだったりもします。

芸術家が自由な発想で、独自のオリジナル作品をつくり評価されるのに対し、設計者は自由とはほど遠い、矛盾に満ちた中から計画がはじまります。施主の価値観、要望、法的な規制、敷地の制約、予算、工期、そして、設計者の価値観。また、建物の完成には、多くの人との連携、協力を必要とします。だから、評価は決して自分だけのものではありません。

長期的な視点を持ち、矛盾と葛藤し、できた建物を大切に思う、リアル設計者を求めます。

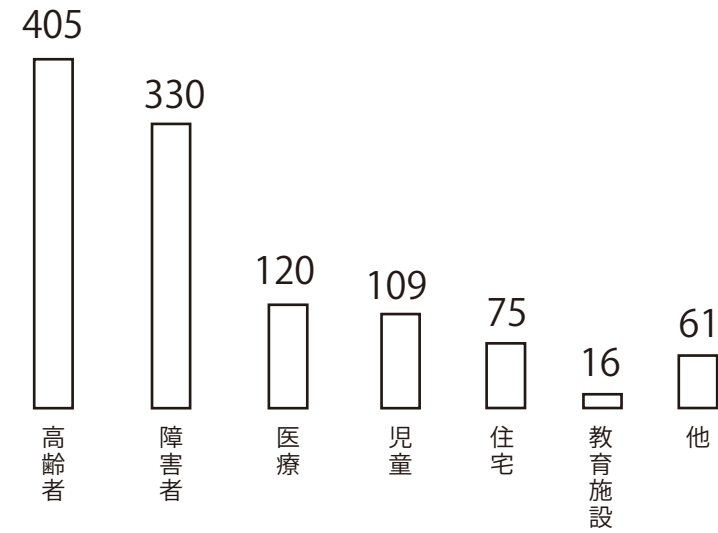
半世紀の経験

1060件 /50年

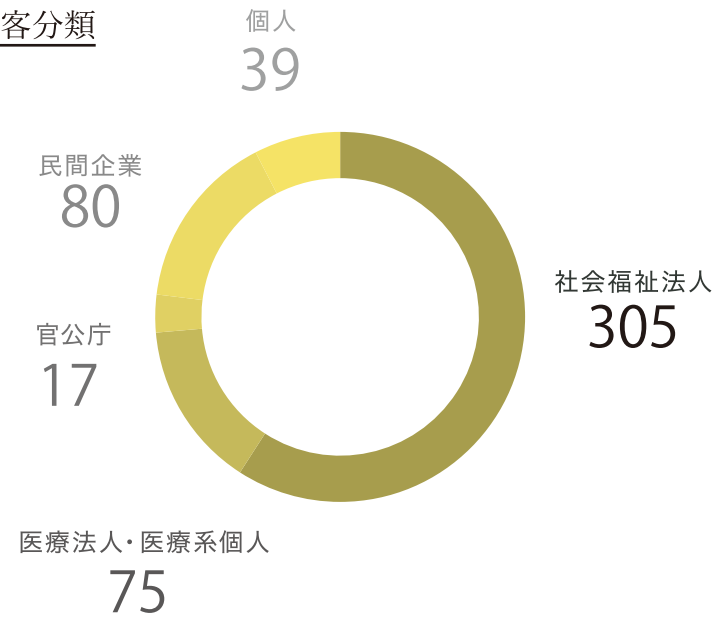
1969年、新環境設計は福祉施設を専門とする設計事務所として創業しました。それから半世紀が経ち、時代が大きく変わっても福祉は社会に必要な不可欠なものであり、その役目が終わることはありません。そんな中、いま令和の時代は高齢者、障がい者、児童などの垣根を超え、支える側と支えられる側という立場の違いすらもなくした「地域共生社会」へと舵が切られ始めています。これまでの経済性とは別の豊かさを持つ新しい街づくり、環境づくりが進んでいくでしょう。

そのとき福祉施設は、単なる建物ではなく人と人をつないでいくような場所でありたい。私たち新環境設計は、建物の完成を新たな暮らしの始まりと捉え、みなさまの毎日に寄り添いつづける設計事務所を目指します。

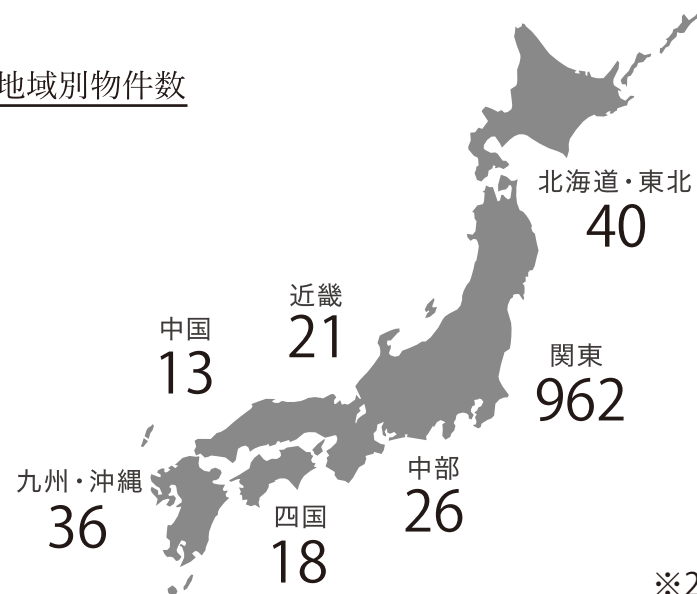
用途別物件数



顧客分類



地域別物件数



※2024年時点

基本計画

01



a 設計依頼・打合せ

設計のご相談をいただいたら初回の打合せを行います。

b 現地調査

設計を進めていくには、まず現地調査から。まわりの環境、方位などからイメージを膨らませて行きます。

c 法令等調査

各種法令や道路状況を役所にて下調べします。

d ラフプラン作成

調査内容を元にラフプランを検討します。

基本設計

02



a 基本プラン

施主と数回の打合せを経て基本プランが出来上がります。

b パース・模型作成

基本プランを立体化させてイメージを共有します。

c 協議書作成

基本プランをまとめ、補助金申請のための資金計画や協議書の作成を行います。

d 協議書提出→補助内示

基本プランを元に実施設計に移行します。

実施設計

03



a 実施設計図作成

意匠、構造、設備の各担当者と情報のキャッチボールをしながら、複数人と協力して具体的な設計図を作成していきます。

b 事前協議

図面作成と並行して計画地の官公庁と、中高層条例、景観条例、緑化条例、雨水抑制などの事前協議を行います。

c 確認申請

確認検査機関や消防署と、建築基準法、省エネ法、構造計算適合判定、バリアフリー、消防法の打合せを行い、確認申請を行います。

工事監理

04



a 起工式

工事中の安全を祈願して起工式を行います。

b 工事管理

定例会議や分科会、施工図チェック、各工程での検査を行い、現場に指示を出します。また、仕上げのプレゼンやモックアップ（実物模型）で確認し、詳細な納まりや仕上げ材を決定します。

c 竣工検査

竣工前の最終検査。隅々までチェックし、引渡しに備えます。

d 竣工式

引渡し後も長いお付き合いをさせていただきます。

総合福祉施設 あかつき

深谷市東方の下郷遺跡地内にあたる歴史的価値の高い、周辺には畑が広がるのどかな土地に、既存の施設からの移転建て替えとして計画されました。

外観は、施設名の「あかつき」の名を冠する「暁色（ぎょうしょく）」をコンセプトとし、深谷らしさを表現するため、歴史的に深い関わりのあるレンガとコンクリートを組み合わせてデザインしました。

施設としては、特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス・地域交流スペースで構成されています。特別養護老人ホームは、ユニット型80名と従来型40名の組み合わせで、特に従来型の居室は、建具や間仕切家具にてプライバシーが十分確保できる空間としました。

また、内装デザインについてはユニットごとにテーマを選定し、それぞれに合わせた和柄の内装材をアクセントとして採用しています。

1階の地域交流スペースには、学習スペース、子供食堂、薪ストーブのある談話スペースが併設されており、隣接しているデイサービス利用者との交流が図れるとともに、地域に開かれた施設が実現できる建物になりました。

所在地	埼玉県深谷市
建築主	社会福祉法人 邑元会
施工	古都建設株式会社
敷地面積	8,641.58 m ²
延床面積	5,309.98 m ²
主要用途	特別養護老人ホーム
構造・規模	鉄筋コンクリート造 地上2階
竣工	2025年2月



エントランス



共同生活室



ラウンジ



ラウンジ



職員休憩室



地域交流スペース



4人室



居室

障害者支援施設 大泉障害者支援ホーム

都立大泉中央公園に隣接し、春は桜並木など四季を感じられる場所です。外構は公園を借景に取り込み、四季を感じる植栽計画としました。外観はアースカラーを基調に様々なテクスチャを組み合わせ、多様性を表現しています。

この施設は視覚障害と知的障害の重複障害の方が40名ほど暮らしています。1階は入所部門と別に障害福祉サービス事業所を設けており、タオル折り、箱折り、水耕栽培などの就労支援を行っています。地域交流スペースとして「café vivo tree」を営業しており、水耕栽培で生育したレタスの販売、練馬区の農家から仕入れた食材で食事を提供しています。2階は入所部門で居室が並びます。職員の目が行き届くよう、ガラスの間仕切りなどで視界を広げる工夫を施しています。

「vivo tree（ヴィーボツリー）」という愛称をコンセプトに、木目やビビッドカラー、多様性を表現した図形で内装デザインやサイン計画をまとめました。視覚障害の点では、廊下のアクセント面やサインの色調はビビッドカラーとしたこと、廊下の交差点にトップライトを設け明るくしたこと、扉に凹凸をつけて個室であることの印を施したことなどで工夫しました。

所在地	東京都練馬区
建築主	社会福祉法人 東京援護協会
施工	建築：鴻池組 電気：旭電業 機械：日設
敷地面積	8,701.91 m ²
延床面積	3,829.51 m ²
主要用途	障害者支援施設 障害者支援ホーム
構造・規模	鉄筋コンクリート造 地上2階
竣工	2022年3月



南側外観



エントランス



談話コーナー



食堂



作業室



個室



カフェ



カフェ

WORK - 高齢者 -

特別養護老人ホーム しょうじゅの里 相模原



エントランス



エントランス



浴室



個室

特別養護老人ホーム スミール荏田



エントランスホール



地域交流スペース



共同生活室



個室

特別養護老人ホーム 愛泉苑



地域交流スペース



地域交流スペース



ラウンジ



個室

特別養護老人ホーム ハレサク



地域交流スペース



エントランス



個室



職員休憩室

WORK - 障害者 -

障害者支援施設 障害者福祉サービス事業所 立川療護園はごろもの音



屋外作業スペース



地域交流スペース



個室

東京高次脳機能障害者支援ホーム



談話コーナー



EV ホール



日中活動・作業療法室



個室

障害者福祉サービス事業所 第2はぐくみ園



廊下



食堂



作業室



中庭

障害福祉サービス事業所 陽光



エントランス



訓練作業室



地域交流スペース

WORK - 児童・医療 -

上智厚生館保育園



エントランス



階段



保育室

今治中央ばりっこ保育園



保育室



園庭



遊戯室



保育室

練馬高野台病院



食堂・談話室

光が丘医療福祉プラザ



外来受付ホール



外来待合



リハビリ室



病室



スタッフステーション



デイルーム

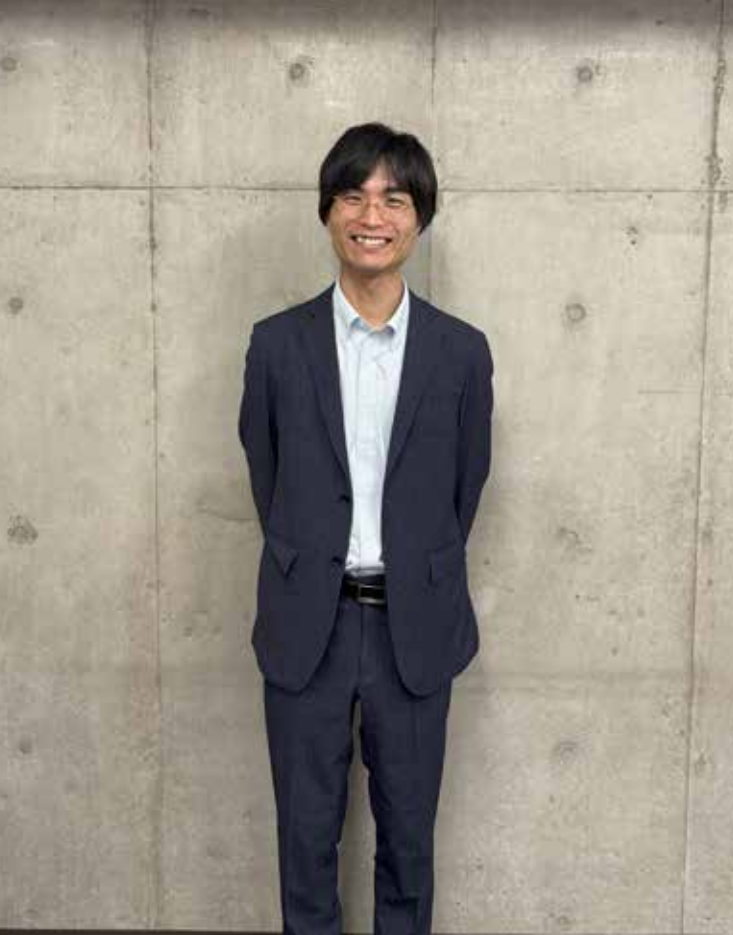


病室

湯谷 朗人 2020～
香川大学大学院工学研究科安全システム建設工学専攻修了



武藤 直人 2020～
日本大学理工学部まちづくり工学科卒業



コミュニケーションの重要性

設計の仕事を通して感じたことは、コミュニケーションの大切さです。

仕事を進める上で打合せの機会は想像以上に多いです。社内、施主、施工者、行政等

打合せ相手は多岐にわたり、様々な意見をまとめて建物を設計します。

コミュニケーションをとることにおいて大切にしていることがあります。それは、相手の考えの本質を理解しようとすることです。本質を理解した上で設計することでより良い建物ができると感じます。

例えば、施主の要望をそのまま形にするだけでは、設計の仕事としては不十分であると私は思っています。福祉施設の設計においては、施設の種類や施主によって考え方は異なります。それぞれの要望の本質を見抜き、なぜそうしたいのか、そうする必要があるかを明確にする必要があります、そこからこれまでの経験や知識を踏まえて最善の方法を提案する。そこに設計の仕事の存在価値があると私は思います。

本質を見抜くことはとても難しいことです。さらにそこから提案をすることはさらに難しいことですが、私はそこに設計の仕事の面白みと魅力を感じています。

まちづくりに繋がる福祉の設計

私は大学時代にまちづくり工学を専攻しており、建築、土木以外にも福祉、観光、景観、造園など多岐に渡りながら建築に触れてきたので、その経験を活かせる場に立ちたいと考えていました。

そこでたどり着いたのは福祉分野の設計です。福祉施設はまちのシンボルとなる存在に気が付きました。例えば、福祉サービス事業の一環としてカフェを設けたり、ランドリーの運営管理の担い手となる事業所も存在します。現実的には近隣住民の理解を得られない案件も存在しますが、社会の傾向として、施設の特性を考慮した地域への開き方を考える機会が多くなってきたと思います。これが面白いと感じ、新環境設計に就職しました。

また、福祉施設の設計は単純にはいかず、日々の勉強と経験が欠かせない分野だと思います。障害の種類が多様に存在すれば、それだけ施設の種類があります。運営者によっても介助の考え方は異なります。もちろん入社当時から専門知識があったわけではないので、当事者との会話から理解を深めていくしかありません。けれど、単に箱をつくる設計よりは、断然面白いと思うので、ぜひ興味をもって福祉の世界に入ってきてほしいと思います。

深澤 薫 2024～
東海大学工学部建築学科卒業



山川 凜花 2025～
東北工業大学大学院工学研究科建築学専攻修了



人のための建築

私は大学卒業後、1年間アトリエ系の設計事務所に勤めたのち、新環境設計に入社しました。前職では主に店舗設計に携わっており、そこでは「商品をいかにかっこよく見せるか」「どのようにプランニングすれば商品がより魅力的に見えるか」といったように、物が主役になりがちでした。そのため、視覚的なデザインに重点を置く人が多いという印象を受けました。

一方で、私は人を中心に据え、人に寄り添う建築を設計したいと考えるようになり、そうした思いから医療・福祉分野の建築に関心を持ち、新環境設計への入社を決意しました。実際に入社して福祉建築の業務に携わる中で、福祉分野の建築は他の用途と比べても、より一層「人に寄り添う建築」であることを実感しています。

例えば、老人ホームでは車椅子の利用が前提となることが多く、利用者が使う設備機器のスイッチや鍵の高さなど、他の用途ではある程度定型化されている項目も、一人ひとりの状態や症状に応じて、「誰が」「どのような場面で」使うのかを丁寧に想像しながら計画を立てていく必要があります。

こうした細やかな配慮を積み重ねることこそが、「人のための建築」であると感じています。

福祉の居場所づくり

私が福祉施設の設計に携わりたいと考えたきっかけは、普段から祖父母と暮らしていたことや職業体験で高齢者に関わる機会があったからです。大学では建築学を専攻し、福祉施設の設計・計画を学びたいと考えるようになりました。3年生から福祉住環境の研究室に所属し、より専門的に福祉施設に関わるようになりました。その中で、従来の福祉施設は閉鎖的な印象があり、利用者が他者や社会とのつながりを持ちにくく、取り残された存在のように感じました。

そこで、研究では高齢者に焦点をあて、「他者や社会とつながることで社会的孤立を防ぐための居場所づくり」をテーマに各地の施設を調査し、解決策を設計に落とし込みました。

街の居場所は時代の流れとともに変化していくものですが、足りていなかった福祉の要素を取り入れることで福祉の対象となる人々が日常的に社会の中で生活できる居場所づくりが社会的孤立を防ぐことにつながると考えました。

新環境設計は福祉施設を専門としているため、これから様々な福祉施設の設計に携わることになると思います。今後の福祉施設は街に開かれ、利用者が孤立せず街の居場所になるような福祉施設が増えていくことを期待し、研究で考えてきたことを活かしながらより良い施設づくりに貢献していきたいです。



企業概要

企業名	株式会社新環境設計
設立	1969 年 2 月
資本金	3000 万
住所	東京都文京区本郷 4-9-15ADMAX ビル
従業員数	24 名
	一級建築士：14 名
	構造設計一級建築士：1 名
	福祉住環境コーディネーター 2 級：2 名

事業内容	福祉施設・医療施設などの設計監理業務 (施設立案、建築計画、採算計画他)
------	---

企業の特徴	福祉・医療施設の設計監理に特化した設計事務所です。物件担当者が基本実施設計を行い、工事監理・竣工まで一貫して携わる業務形態を基本としています。また、担当者が竣工した建物を末永くフォローしていく方針です。
-------	---

募集要項

職種	一級建築士事務所
募集人数	若干名
業務内容	建築設計・監理業務
年齢	年齢不問
勤務地	東京都文京区本郷 4-9-15ADMAX ビル
雇用条件	雇正社員 ※試用期間あり 3 か月
給与条件	会社規定による 初任給 大学卒：210,000 円 修士卒：230,000 円

他	家族手当、住宅手当
賞与	年 2 回
昇給	年 1 回 (4 月)

勤務時間	9:30 ～ 18:00 (実働 7 時間 30 分、休憩 1 時間)
------	--

休日・休暇	完全週休二日制 (土日祝) 年末年始休暇 夏季休暇(有給休暇取得による)
-------	--

待遇	通勤交通費 全額支給
----	------------

福利厚生	社会保険完備
------	--------

インターンシップ	対応可(詳細はお問合せください)
----------	------------------

提出書類	履歴書・成績証明書 卒業見込み証明書・健康診断書
------	-----------------------------

問い合わせ先	〒113-0033 東京都文京区本郷 4-9-15ADMAX ビル ☎03-5800-0321
--------	---